

思い出のデート



ラピス



目次

思い出のデート	1
---------------	---

思い出のデート

思い出のデート

俺、哲郎は彼女のあかりと歩いている。

あかりは近く中華料理屋に行きたいらしい。

「初めての店だから分からないけど、おいしいといいね！！」

俺はあんまり外食に行かないので分からないが彼女はいろんな店を知っている。

なので、俺があまりリードしなくていいのは助かる。

「ここか……」

そこには名勝軒とあった。よくありそうな中華料理屋だった。

「さっ！ 早く入ろうよ～～」

というわけで名勝軒の中に入ることにした。

……

「へい！ いらっしゃい」

威勢のいい掛け声がお出迎えした。

「空いてる席に座ってください」

「じゃあ、このテーブル席で！！」

あかりとテーブル席に座る。

あかりは機嫌がいいようだ。

「何にする、何にする？ いろいろあるけど……」

「じゃあ、俺はこのチャーシュー麺で」

「私はエビチリセットにする。あのすみません～」

あかりが店の人に注文を伝えた。

基本的にあかりがお姉さんなので、俺はいろいろと教えてもらう側だ。

「どしたの？ 浮かない顔して」

「いつもあかりがリードしてばかりでちょっとと思って……」

「哲郎は引っ張ってくタイプじゃないからね。いろいろ教えてあげないと」

「そうか……」

料理が届いた。おいしそう匂いが伝わってくる。

「おいしそう。いただきます」

「いただきます」

チャーシュー麺をすすってみた。スープはあっさり系だった。

そして麺は細麺だった。だしは何だろう、鶏がらか。

とてもおいしい。

「.....」

あかりは浮かぬ顔をしている。

何かあったのか？

店から出てあかりは言った。

「う～～ん、味がいまいちね！！

鉄菜館に行こう！！

ね？」

「は？ 2軒目.....」

鉄菜館。

中華料理屋で味は知れ渡っている。

ここからはバスで行かなくてはならなかった。

「しょうがない、行くか」

バスを待って乗り込み、鉄菜館に向かった。

「哲郎も大変だよね。

抗精神薬と戦って.....。

離脱症状ってすごいんだってね。

想像を絶するとネットで見たよ。

そんなのと戦ってて、すごいね」

「精神の戦いだからな。

精神の不調と戦う。

狂気と異常の狭間で戦い抜くのさ。

この薬をやめだした時から調子が悪いんだよな.....」

「薬を増やしてみるのもいいかもしれないね.....。

こんな薬ほんとは飲みたくない。

でも、飲まないと調子が狂う。

哲郎はほんとはよく戦ってるよ、ほんと。」

「ありがとう。感謝する」

鉄菜館に着いた。

余り大きくはなかった。

ショーウインドウの向こうに料理が並んでいる。

焼きそば、焼うどん、ペペロンチーノ、アラビータ。

そしてその横にグッピーがでかい桶に入って泳いでいた。

「わぁ～～。グッピー！！ かわい！！

私もこれ飼いたいなあ～～。」

「でも、これ、熱帯魚だから、ヒーターが必要だよ」

「げっ！ ヒーター！ なんか危なそうなイメージ.....」

「でも、今は水から出ちゃった場合にも自動で止まるって言うし、燃えにくい樹脂を使ってるから安全だよ。

でも、説明書きはちゃんと見たほうがいいと思う。」
「哲郎、こういうことには詳しいんだね」
「ウーパールーパー飼いたくてね、いろいろ調べたんだ。
でも、それも過去の話。もう飼おうとは思わない……。」
「ふ～ん、そうなんだ～～」
俺は焼うどんを皿にのせ席に着いた。
あかりはアラビータを皿にのせ席に着いた。
あかりはアラビータをすすり、歓喜の声を上げた！
「う～～ん、おいっしい！！」
やっぱり来てよかった。
この辛み！　このシーフード！！
かんっぺきだわ、これは」
俺は焼うどんをすすった。
とてもおいしかった。
昼食を終え、店から出た。
「う～～ん、おいしかったね！！」
でさでさ、この後、お寺に行かない??」
「お寺？　何で??」
「その住職がいい説教をするんだってさ！
聴きに行こうよ、ぜひ」
「ふ～～ん、じゃ、行ってみるか」
そこから歩いて、お寺に着いた。
緑豊かな美しいお寺であった。
「これはこれは、よく来てくれました」
「あの～、説教はどこで聴けるんでしょうか？」
「あ、すみませんでした。説教はもうすぐあちらの屋敷でされます。
ぜひ、行ってみてください」
「楽しみだね～、説教！！」
「初めてだからな、楽しみだな」
そして、屋敷の中に入り、畳の部屋に通された。
静かなお寺で、あたりには鳥の鳴く声しか聞こえない。
そこに正座して座り、説教が始まった！
「え～、皆さん、こんにちは！
住職の竹内です、よろしくお願いします。
今日は「汚されない仏性」というタイトルでお話をさせていただきます。
私たちには清浄な本心というものがあります。
煩惱のちりの中に閉ざされていても汚されない、清浄な仏性というものがあります。
仏性とは何か？　それは仏様のような心ということです。
仏様のように慈悲心にあふれ、人を思いやる人物に変えられるということです。
仏性は雲にかき消されても雲に汚されることはなく、煩惱の世にあって汚されることも

ない、たとえ地獄に落ちても、消えることはない永遠の本心です！
私たちは仏様のようにする必要がある。
それで、大事な点が2点あります。
一つはあきらめるということ。悟りとは迷いの反対にある本性です。
煩惱を掻き立てるのは迷いです。欲望です。
これは悪い欲だなと思ったら、スパッとあきらめる。
不動の心を身に着ける必要があります。
そこで大事なのが、仏様の慈悲に頼るということです！！
自分の力ではどうすることもできない、でも仏様の慈悲に頼ることで仏様から智慧と悟りをいただける。迷いの連鎖を断ち切っていただける。
仏様のうちに無限の智慧がありますので、私たちは大丈夫ということです。
仏に頼る者はだれでも仏の子です。
ここに、喜びと平安があるのですよ！！ 皆さん！！
分かりましたか？
仏様の慈悲にすがりましょう。
仏様は温かい心で私たちを見守っていてくださるのですから。
感謝します。
合掌。」

説教が終わった。いい話だった。

寺から出て、あかりが感極まったように声を出した。
「ほんとにいい話だった～～。
悟りとは迷いの反対にある。不動の心だって。
私とは全然違うなあと思った！！
これが宗教かと思ったよ、ほんと」
俺が返事を返す。
「宗教っていうと禁欲的なイメージがあるからな。
俺ももうちょっと欲を抑えて生活しないとな」
「そうだね～。私もいつか悟りを開きたいなあ～～」
「悟りを開く……たいそうな願望ですね」
「いや、ジョークなんだけどね。なんでも分かってみたいかなあと思って……」
「そうか」
そして。二人で駅に行き、その日はお別れとなった。
「寂しいね。また会える日を楽しみにしてるね」
「ああ、また会おうな！！」
「じゃね。またメールするね」
「おう。じゃな！！」

二人は手を振って別れた。

次の日の寺で.....。

坊主たちは朝から奉公に励んでいた。

庭を掃除し、お経を読み、瞑想をして仏様の御心に適う行いをしていた！！

そして、精進料理を作っていたものが突然腹痛を訴え始めた。

「なんだ！？ どうした！？ 痛いのか??」

「すまん.....。もう無理だ.....、救急車を呼んでくれ！！」

そこで、住職は救急車を呼ぶために固定電話のある所に向かった。

その間に庭で掃除をしていた者も腹痛を訴え始めた。

「うおおおお！！ 痛い！！ 誰かー！！ 助けてくれ～～」

住職は救急車を呼ぼうと受話器に手をかけた。

しかし...

「ぐっ.....、これは.....なんだ.....、い、痛い！！ は、腹が.....！！

きゅ、救急車を！！」

住職は死に物狂いで救急車を呼んだ。

5人すべてが腹痛で病院送りとなった。

「ふふふふ、うまくいきましたね！！」

空から漆黒の翼を持った何者かが舞い降りた。

漆黒の翼、げた、袴、頭襟を着けた何者かがうすら笑いをしている。

烏天狗、左派ネジ式であった。

左派ということは共産主義、社会主義、全体主義であろう。

国家を転覆させる思想を持っているのかもしれない。

ネジ式というのは何か分からない。

天狗の中でのステータスなのか.....。

それは神のみぞ知る領域であった.....。

「これで、この寺は陥落！！ 残る場所はあと5つ.....」

朝、哲郎の胸にかきむしる何かが起きた。

誰かが危険にさらされている！！

哲郎はすぐにその根源を探り出した！！

そして、心の中に神様が示してくださったのは、

昨日行ったあの寺だった。

「は！？ あの寺に何が！？ 早く行こう！！」

あかりには連絡しなかった。

彼女を危険にさらすわけにはいかない！！

そして俺は電車に乗り、バスに乗り、寺に着いた。

そして庭に入るといた、烏天狗が！！

「な、なんだ！？ 貴様は何者だ！？ ここで何をしている！！！！??」

烏天狗はふんぞり返り言った。

「貴様には関係のないことだ。我々の目的は完全に遂行される。

邪魔する者はすべて消し去る。それだけのことだ」

「寺の坊主は！？　どこへ行った！？」

「それも貴様には関係のないことだ。今頃地獄の苦しみであえぎ苦しんでいるさ。

それだけのことだ」

「きっさまああ！！　よくもやってくれたな！！」

「ほう、俺に歯向かう気かい？　ならば葬り去るまでだ！！」

烏天狗は刀を抜き、こちらを見据えた。

すさまじい気迫であった。

完全にやる気なんだろう。

「ふん、貴様にはこれで十分だ！！」

俺は拳を握り、力をためた。

熱い気が立ち上り、緊張はMAXになった。

「ふん、できるようですね。ではこれではどうですか！！」

烏天狗は飛んだ！！

そして、空中からいきなり、斬りかかってきた！！

「だからどうした、こうしてやる！！」

斬りかかってくる烏天狗を見据え、その刀を持つ手首に注目した。

「秘技、刀崩し！！」

俺はその手首をつかみ、折った！！

ベキッ！！

鈍い音をたてて、骨は折れ、烏天狗は地面をのたうち回った。

「ぎゃあああああ！！！！　き、貴様、なんてことをおおお！！??」

「これが不動明王、金剛力士の力だ！！　観念するんだな、悪党め！！」

「ふん、少しはできるようですね」

「誰だ！？　今度は何者だ！？」

「私はこの計画の首謀者。大天狗の永樂ですよ。

私たちはこの日本の転覆を狙いここを落としました。

それだけのことです」

「はあ？　意味が分からねえが」

「レイラインというのはご存じで？」

「レイライン？　聞いたこともないな」

「レイラインというのは日本の霊の要所を結ぶ一直線の線のことです。

伊勢神宮、明治神宮、日光東照宮、出雲大社、高千穂神社、そして、ここ寂音寺がレイラインに含まれている。

ここが一番霊力が弱く、落とせそうなので狙いました。

日本の結界が破られれば、日本に大恐慌が起こるでしょう。

私はそれが楽しみでした。それだけのことです。」

「な、なんてでたらめなやつらだ.....、怒る気にもなれん」

「あなたにはここで死んでもらいます。最後の花向けに真実を教えました。

何にも悪いことはないでしょう」

「そんな計画、俺が踏みつぶしてやるよお！！」
「この勝負は先にダメージを負った方を負けとしましょう」
「は？ そんなルール、ふざけんなよ！！」
「では先に大きなダメージを受けた方を負けとしましょう。覚悟はいいですね？」
「おうよ！！ いつでも来な！！」
「では.....」
大天狗は分身した。
大天狗が3体になった。
「こ、こいつは難儀だぜ.....」
俺は拳をベキベキとならし、相手を見据えた。
3体同時に降りかかってきた！
俺は剣筋を見極め、震脚をし、相手に発勁を叩き込んだ。
発勁とは中国武術による力の発揮の仕方だ。
震脚、足を強く踏みつけ、反動で、力を発揮するのだ！！
これには日々の鍛錬があるので習得は難しい。
熟練の技なのだ！！
1体が虚空に消えた。
しかし、大天狗の影縫いにより、哲郎は身動きがとれなくなった。
「仕方ない、奥義を見せてやろう！！」

この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。コロサイ1：27

奥義とは、キリスト、完全に私たちを救ってくださる、メシア・キリスト様のことです。

彼は、神でしたが人となり、罪がありませんでしたが十字架にかかり、神の子でしたが神から見捨てられ、身を低く低くあらわれました。

この聖なる義人が私たちのために死んでくださった。罪びとではない、義人が私たちの身代わりになってくださったのです。

傷のない子羊、神の子イエスをほめたたえましょう。他のどんなわざもイエスの十字架には及ばない。

イエスの十字架は私たちのいのち、まことの永遠のいのちなのです。アーメン。」

俺は久々に福音を語った。

俺の心は神から離れていた。

俺の大事な願いは神は叶えなかった。

妹は死んだ。もう一度立って歩けるようになることを願ったが、神は叶えなかった。

神は叶えなかった。

俺にはそれが非常に腹だたく、神から離れる要因となった。

しかし、妹は幸せそうに死んでいったように思う。

これが最善なのか.....。

妹はきっともう天に帰りたいかったんだ。

そう信じて、神を信じる。

神を信じる。絶対的な平安を得る。神の完全な救いにあずかる。

神は信じるものを見離さない。そう信じていたのに.....。

「お前らのおかげで目が覚めた。

本気で行くぜ！！」

俺は震脚をし、一気に突撃した。間合いを一気に詰め、相手に渾身の発勁を叩き込んだ。

相手は本体だけになった。

「天狗奥義、風神大乱舞！！」

風の刃が哲郎を襲う.....。だが、

「あきらめな！！ 復活の恵み！！ リザレクションガン！！」

俺は気を溜め、相手に押し出した。

風の刃を打ち消し、大天狗に衝突した。

「ぎゃああああ！！！！ ごめんなさい、いいい！！！！」

「もう悪行なんてすんなよ！！ 地獄に落ちるぜ！！」

この1件は終結した。

次の週、また俺はあかりに会った。

あかりに大事なことを伝えないといけない。

「あかり、大切な話があるんだ。よく聞いてくれ。」

「何、哲郎、何があったの??」

「実は俺クリスチャン、神の聖徒なんだ.....。

ごめん今までだまして、謝ります、アーメン」

「ふ〜〜ん、そっかあ、そうなんだあ、それかあ」

「それかあというのは??」

「なんか独特の雰囲気があったんだよね。なるほどクリスチャンだったからか.....。

クリスチャンになるにはどうすればいいの??」

「イエス・キリストを信じること！ それだけだ」

「なら、私も信じる！！ これからもよろしくね、哲郎！！」

「あかり.....ありがとう.....」

天狗事件があり、一時はどうなることかと思ったが、結果はすごくいい方に傾いた。

これが神の恵みということか。

神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。ローマ8:28

神様はいいことも悪いことも全部プラスにしてくださる！！

神様の救いから漏れることはないということですね！！

神様はいつでもあなたのことを見守ってくださいます。
神様はいつも私たちを助けてくださいます。
その声に耳を傾け、神様の御声に聞き従うことが大事です。
神様はあなたのことを愛してくださっています。
神様の愛を受け取り、神様に愛をお返しいたしましょう。
イエス・キリスト・神・メシアはあなたのためにいのちをお捨てになられたのですから。

感謝いたします。

主イエス・キリストの尊い御名を通してお祈りいたします。
アーメン。

～完～

あとがき

夢でこれを見て、心に残ってたので小説にしました。
短い夢だと思ってたけど、結構長くなりました！！
妹の話と大天狗との戦闘がチープ。
もっと他になかったのかなあと思う。
こちら辺は夢に出てこなかったからなあ.....。
夢から作ると序盤は独特の雰囲気が出るけど、
後はストーリーがワンパターンになって来ちゃってるかなあと思います。
でも、主がこの小説を書ききってくださいました！！ありがとうございます。
主イエス・キリストの御名によって感謝して御前にお捧げ致します♪
アーメン。

PS 発勁は震脚がすべてではないんだって。なんだかよく分からないけど、
真実が大事だと思って書きました。
感謝します。

ラピス

出典：聖書 新改訳 2017 I2017 新日本聖書刊行会

思い出のデート

版番号の予定

{{-
-}}

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
